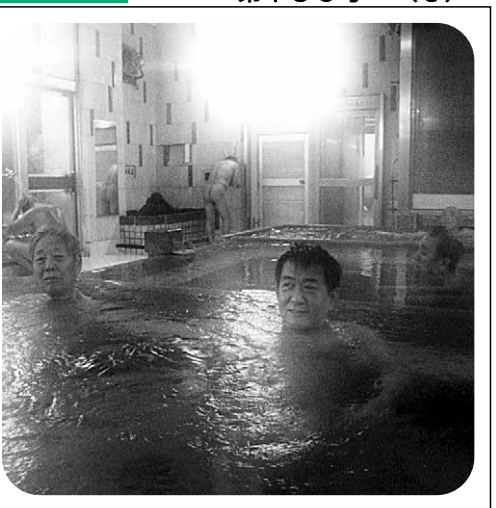
みなと銭湯ものがたり

●……2……●

天然温泉を流入させた主湯で「よう温もる」とご機嫌の常連客。23年前の先代の直感と執念の賜物だ



人気の源泉かけ流し

諸病に効能、遠方からも客が

湯温・水質管理に入念の手技

風も凍てつく一月の宵。みなと通の港晴バス停から歩二分。「テルメ龍宮」のネオンに誘われるように常連客が訪れます。近くの高齢者が多いようです。広々とした主湯。奥には露天風呂、電気風呂、水風呂、スチーム、サウナも。湯気の間から「天然温泉はよう温もる」とご機嫌な声が響きます。

龍宮温泉（テルメ龍宮）

◆地下1500mから

この龍宮温泉の歴史は戦後、石川県小松市で農業を営んでいた先代の宮下怜さん(七九)が開きました。同郷の業者の誘いで上阪し、昭和三十三年から市内で賃借料を払って浴場を経営。同三十八年に現在地へ移転し、創業しました。

同四十五年には法人化を果たし、広い宴会場を持つ現在の建物を建設。そして平成元年、「必ず出る！」との直感と執念で温泉掘り当てに挑戦。地下千五百メートルからの源泉汲み上げに成功したのです。心配された湯量も湯温も申し分なく、特に泉種は五十肩、神経痛、リュウマチ、切り傷などに効能があるというナトリウム塩化物泉。これを主湯などに流入させると共に、露天風呂は「完全かけ流し」としました。この〝快挙〟はマスコミにも取り上げられ、以来、遠来の客も目立つようになったといいます。

◆手作業に神経減らす

この特色ある銭湯を受け継いだのが息子の守人さん(五三)。一日の仕事は、正午に源泉を浴槽へ流入させることに始まり、午後三時の開店後は湯温や水質の管理に主力を注ぎます。特に、①五十度超の源泉を気温や客数に応じて適温まで落とすこと②浴槽内の塩素濃度を適正に調整すること―は経験と勘が物を言う〝手作業〟で、神経をすり減らす毎日だといいます。

これを支えるのは交代で番台に座る母親の喜代江さん(七三)と妻・外喜子さん(四九)。脱衣場の清掃はパート女性三人が担当。午後十二時の閉店後は家族全員で浴場清掃にかかり、寝るのは二時を過ぎます。

◆地域に一軒は必要

拘束時間の長い重労働。にも拘らず利用者減は止まりそうにありません。「健康維持とコミュニケーションの場として地域に一軒は必要。行政には維持費への援助を求めたい」。守人さんの声に力が籠ります。

そんな苦境を支えてくれるのが根強い銭湯ファン。

番台で談笑する喜代江さんと馴染み客。銭湯はコミュニケーションの場でもある

神野計三さん(七六)は自転車で週三～四回。新中広喜さん(八三)は住吉区から越して四十年の銭湯通い。港区へ嫁いで五十年の山崎千栄子さん(七三)は「沢山の人と友達になりました。いつもの顔を見ないと心配になるほどです」。

宴会場では中高年の男女グループが湯上がりにビールやラーメンを囲んで盛り上がっていました。「ここのお湯は最高。ほんまによう温もる」。湯温管理の傍ら料理を運んでいた守人さんの顔が思わず緩みました。

神経痛などに効能があるというナトリウム塩化物泉の噂に遠方からもお客さんが

龍宮温泉メモ　港晴二―三―三三、☎六五七二―〇〇二七。平日・祝日は十五～二十四時、日曜は七～二十四時営業。木曜定休。

戦争の見方変わった

港高生　〝原爆〟に真摯な感想

「戦争や原爆への見方が変わった」―。港高校で昨年十二月、原爆にまつわる映像の鑑賞会を行なったところ、生徒から真摯な感想が多数あったことが明らかになり、注目されています。

この取り組みを担当したのは同校の英語教師・川島昌之さん(五五)。教材として用いたのは、劇団はぐるま座（山口市）による『峠三吉　原爆展物語』（大阪市教委など後援、昨年十月に市内で上演＝本紙既報）をもとにしたDVD。鑑賞したのは三年生三百七十人。

DVDでは、被爆者や沖縄戦体験者の声から「なぜ三百二十万人も殺されたのか」など歴史の真実が浮き彫りにされ、平和で豊かな日本を建設する力は日本民族の中にあることが呼びかけられました。

◆皆が真実を知るべき

生徒の感想には次のようなものがありました。

「これまでの平和学習と違い、人々の怒りや悲しみをテーマにしたことで、戦争の悲惨さやこれからどう生きていくべきかを考えることができた」（男子）

「戦争や米軍への見方が変わった。皇居や大工場は攻撃せず、民家ばかり狙うなんて信じられない。こんなに殺して傷つけて、苦しい気持ちはなかったのかと不思議に思った」（女子）

「アメリカ兵がニタッと笑ったと聞いて、戦争は人格を破壊する恐ろしいものだと思った」

「沖縄の人たちのアメリカ軍に対する憎しみがすごく伝わってきた。沖縄だけでなく日本のみんながこの真実を知り、未来を作っていくべきだと思う」

「これからの日本社会をどのように作っていくか、私たちの双肩にかかっていると思った」（男子）

「昔の人は戦争をまのあたりにしたことで日々の大切さを実感し、温かい日本を造り上げていたのかも。今は生きているのが当たり前と勘違いし、色々なものありがたさを意識しなくなった。だからこそ今、戦争を体験された方々から平和の大切さを学ぶ必要がある。もっと深く戦争について知りたい」（女子）

「日本軍が侵略したから悪い、沖縄戦や原爆投下は悪い日本軍を降伏させるために仕方なかったとよく聞くが、それはアメリカ側の視点で、戦争に勝った方の言うことが正義なんだと思い込むのはとても愚かなことだと思った」（男子）

大きな感動を呼んだ『原爆展物語』の一場面

文化短信

●「ゆらちゃんのおはかまいり」好評　「お墓参りを通して日本人の健全な心を養って頂きたい」とゆらちゃんのぱぱ（田中在住の四十代男性）が昨秋、絵本「ゆらちゃんのおはかまいり」＝**写真**＝を出版。「やさしい文章でお墓参りのポイントがよく判った」「イラストが可愛く、子どもに読み聞かせしやすかった」などと好評。定価八百円＋税。TEL・FAX〇七二五―四五―九〇六四和泉石材・北條。

〈8面に読者プレゼント〉

●『はじめての英語落語』好評　南市岡出身の落語家・桂あさ吉さんの英語落語の本『はじめての英語落語』（国際語学社から昨年五月発行）＝**写真**＝が好評。「書き割り盗人」の英語・日本語DVD付。他に「死神」「転宅」「天神山」「辻占茶屋」「はてなの茶碗」「芝浜」の英語台本と日本語訳も収録。ネイティブ音声も収録されているので英語学習に最適。桂三枝さんが推薦。税込一千五百七十五円。

芸能ミニ情報

●三先出身の歌手・香西かおりさん　ニューシングル『糸車、からり』（TV大阪『逃亡者おりん2』主題歌）『愛し、恋し』（いずれも祇園精舎守作詞・作曲）二月八日発売。▽かおり倶楽部事務所は夕凪一―一一―一八ローレルハイツ一階。

香西かおりさん

●波除在住の演歌歌手・藤かほりさん　二月二十六日（日）十三時から道明寺天満宮で「歌謡ショー」予定▽『男の夢十二代』『人生荒野』（いずれも安藤実親作曲）好評▽☎六五八二―一二四一藤企画。

藤かほりさん

●港南中学校出身の歌手・川奈ルミさん　二月十九日（日）十八時半から恵比寿アクトスクエア（東京都渋谷区）で開催の「デヴィ夫人アクアリウスパーティ」出演予定。ラテン＆ブルースを歌う▽☎〇三―五三九七―六七六七㈱朝月。

川奈ルミさん

●弁天在住の歌手・青木美香子さん　二月二十九日（水）世界館（波除6）でジェイコム新番組収録予定▽三月五日（月）通天閣歌謡劇場出演予定▽☎六五七六―六六一五オフィスMIKARIN。

青木美香子さん

地域まるごと健康づくりへ　スタッフ募集！　わかい職員が多い職場です

職　種	勤務場所	雇用形態	処　遇	備　考
介護支援専門員	ケアプランセンター	常勤	元職・前歴で優遇	
ヘルパー	ヘルパーステーション	非常勤	時給1200円	登録型
看護師	みなと生協診療所	パート	時給1600円～	夜17:45～20:15

★日曜健康診断＜乳がん・子宮がん・人間ドック・特定健診＞★
（次回は2月19日、3月11日、3月25日の各8～12時、要予約）
★病弱者のための共同住宅『ふきのとう』一室空きあり、入居者募集★
～医療・福祉のネットワークで安心して住みつづけられるまちづくりをめざします～
港区磯路3丁目3番4号　港医療生活協同組合　☎6571-5594（担当:姉川）

出版のことなら
社史・記念誌・企業PR誌・自伝・詩歌集
お気軽にご相談ください
地元の出版社
JDC出版　TEL6581-2811　FAX6581-2670　港区波除6丁目5-5

自分史を綴って過ごす良き余生！
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
中学までの秀才が高校で自信を失い、卒業後はパチンコ店などを放浪した挙げ句、政治活動へ。妻と出会って家庭を持ち、活動とは縁を切りましたが、絶えず精神不安に悩まされています。今後のため、そんな半生を冊子にしてもらいました。（50代男性、総料金8万円）
港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636